

健常者におけるシイタケ菌糸体抽出物配合顆粒の 免疫機能維持・改善作用

松井保公¹⁾、石川 悟¹⁾、川西 貴¹⁾、永山在明²⁾

1) 小林製薬中央研究所 2) 福岡大学名誉教授

【目的】

シイタケ菌糸体抽出物は、術後補助化学療法を施行しているがん患者など免疫機能が低下している状態での摂取で、免疫機能や QOL の低下を抑制することが複数報告されている。加えて、肝機能値の改善効果も報告されている。

しかしながら、健常者を対象とした免疫機能に及ぼす影響についてはこれまで十分な報告がなかった。本試験では、一般成人を対象として、シイタケ菌糸体抽出物の免疫機能に及ぼす影響を検証することと目的とした。

【方法】

試験は、単群オープン試験として実施した。九州補完療法研究会倫理審査委員会承認後、2008 年 5 月～2009 年 9 月に福岡天神南クリニックにおいて、健常男女 10 名を対象に実施した。被験者は試験食品（原則 1 包（1 包あたり LEM800mg 配合））を 20 週間連日摂取した。主要評価項目は、免疫機能（末梢血サイトカイン産生量及びリンパ球サブセット）とした。

【結果】

末梢血サイトカインの産生量は、IFN γ が摂取前値に比べ摂取 20 週後で上昇する傾向が観察された ($p<0.1$)。IL-10 産生量は摂取前値に比べ摂取 20 週後値で有意に低下した ($p<0.05$)。IFN γ 産生量と IL-10 産生量の比は、摂取前値に比べ摂取 20 週後で有意な上昇が観察された ($p<0.05$)。

リンパ球中の制御性 T 細胞割合 (CD4+CD25++Foxp3+/リンパ球) 並びにヘルパー T 細胞中の (CD4+CD25++Foxp3+/CD4 (+)) 割合は、シイタケ菌糸体抽出物の摂取前後で有意な変化は観察されなかった。また、リンパ球中のヘルパー T 細胞 (CD4 陽性) の割合も有意な変化は観察されなかった。

【結論】

シイタケ菌糸体抽出物の摂取は、健常者において、免疫機能の維持・改善に寄与する作用を持つことが示唆された。